

立花銃三郎 たてはな じゆうさん 教育學者。慶應二年五月一日陸奥國下手渡生れ。明治三十四年五月十一日没（八七一—九〇二）。三池藩士立花領の三男。福岡縣三池の山中學を了へ明治十六年上京、共立學校、東京大學豫備門を經り、二十二年帝國大學文科大學に入り哲學を修む。在學中、芳賀矢一と共に『國文學讀本』明治二十三年四月二十八日富山房書店）を編纂、「北光」と題してヴォルテールの『シヤルル十』を譯す。卒業後大學院に進み、二十五年學務院講師、傍り東京專門學校講師となり、社會學、教育學を教へ、二十九年は學務院教授に任ぜられた。またダーウインの『種の起源』を、譯としては二番目ながら初の本譯を『生物始源』各種源論』（明治二十九年二月）二十二年經濟雜誌社）と題して刊行。二十二年教育學研究のため、ドイツ、イギリスに留學するも、病を獲て歸國途次、船上に没す。

前記「北光」を収録した『立花文學士遺稿』（明治二十六年一月）二十七日正木直彦編刊）がある。